

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式／ 特殊型（ブル・ベア型）
信託期間	2023年3月16日まで（設定日：2020年3月17日）
運用方針	わが国の公社債に投資するとともに、株価指数先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きのおおむね3.8倍程度逆となる投資成果をめざして運用を行います。
主要運用対象	わが国の株価指数先物取引及びわが国の公社債を主要投資対象とします。
組入制限	<ul style="list-style-type: none">・株式への投資割合には制限を設けません。・新株引受権証券及び新株予約権証券への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。・投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。・同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。・同一銘柄の新株引受権証券及び新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。・同一銘柄の転換社債及び転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。・デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。・外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時（年1回毎年3月16日。休業日の場合は翌営業日とします。）に、原則として以下の方針により、分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

運用報告書（全体版）

第2期

（決算日：2022年3月16日）

SBI 日本株3.8ベア

追加型投信／国内／株式／特殊型（ブル・ベア型）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「SBI 日本株3.8ベア」は、2022年3月16日に第2期決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。
<http://www.sbiam.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額		株式 先物比率	債券 組入比率	純資産 総額
		税込み 分配金	期中 騰落率			
(設定日) 2020年3月17日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 10
1期(2021年3月16日)	590	0	△ 94.1	△ 381.9	—	6,918
2期(2022年3月16日)	661	0	12.0	△ 407.8	—	6,780

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

(注3) 当ファンドは、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きのおおむね3.8倍程度逆となることをめざして運用を行うため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注4) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		株式 先物比率	債券 組入比率
	騰落率	騰落率		
(期首) 2021年3月16日	円 590	% —	△ 381.9	% —
3月末	620	5.1	△ 375.6	—
4月末	633	7.3	△ 370.5	—
5月末	603	2.2	△ 369.9	—
6月末	601	1.9	△ 373.0	—
7月末	718	21.7	△ 360.2	—
8月末	630	6.8	△ 407.3	—
9月末	508	△ 13.9	△ 377.0	—
10月末	534	△ 9.5	△ 375.2	—
11月末	619	4.9	△ 361.9	—
12月末	495	△ 16.1	△ 377.2	—
2022年1月末	602	2.0	△ 392.8	—
2月末	628	6.4	△ 367.1	—
(期末) 2022年3月16日	661	12.0	△ 407.8	—

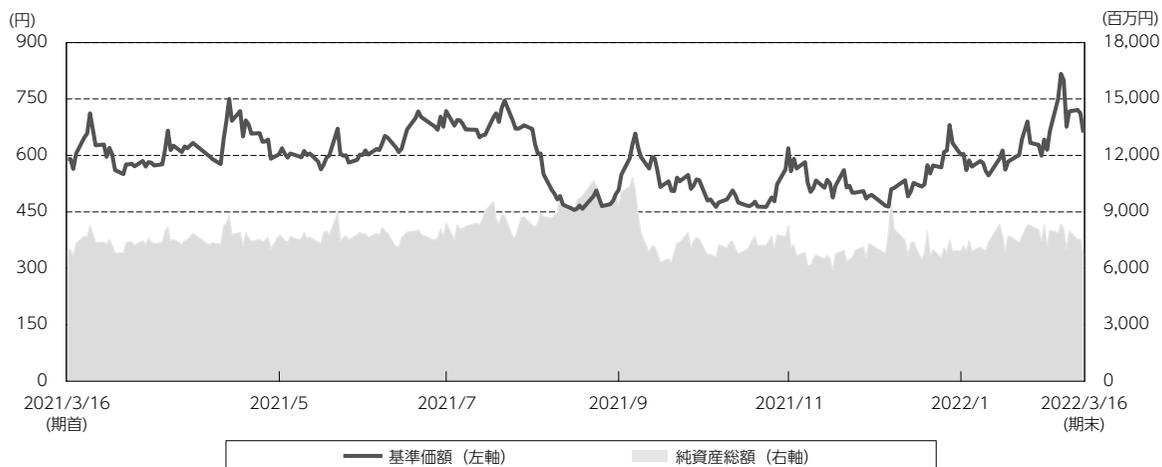
(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

(注3) 当ファンドは、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きのおおむね3.8倍程度逆となることをめざして運用を行うため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2021年3月17日から2022年3月16日まで）

○基準価額等の推移



期首： 590円

期末： 661円 (既払分配金 (税込み) : 0円)

騰落率： 12.0% (分配金再投資ベース)

(注1) 当ファンドは、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きのおおむね3.8倍程度逆となることをめざして運用を行うため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・ 新型コロナ感染拡大とそれに伴い景気回復が遅れるとの懸念により、日経平均が下落したこと。
- ・ FRB（米連邦準備制度理事会）をはじめとした各国中央銀行の早期金融政策正常化への動きで米金利が上昇し、グロース株を中心に売り圧力が掛かったこと。
- ・ ロシアによるウクライナ侵攻と、それを受けたロシアに対する各国の制裁発動、日経平均が下落したこと。

下落要因

- ・ 菅首相（当時）の退任をきっかけに日本経済の成長・改革への期待感が高まり、日本株を見直す動きが進んだこと（その後、岸田氏の当選を受けてその期待感は後退）。
- ・ 日米企業の決算発表が良好な結果となり、日経平均が上昇したこと。

当ファンドは、わが国の公社債に投資するとともに、株価指数先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きの概ね3.8倍程度逆となる投資成果を目指して運用を行います。当初は短期公社債を50%以上組入れる方針でしたが、当期間については金利環境などを勘案し、金銭信託並びにコール・ローンを中心に運用を行いました。

○投資環境



当期の日経平均は、30,000円近辺でスタートした後、新型コロナ感染の再拡大とワクチン接種の遅れなどから夏場にかけて売りに押される展開となり、8月中旬には一時27,000円割れの水準まで下落しました。しかし、9月に入ると、菅首相（当時）の退陣表明をきっかけに急反発を見せ、同月中旬には30,000円台を回復しました。もともと、自民党総裁選で岸田氏の選出が決まると、成長・改革への期待感が後退、日経平均は28,000円を中心とするボックス相場に移行しました。

年明け以降は、1月5日に公表された12月のFOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨の内容が市場の想定以上にタカ派であったことを受け、米国金利が急伸。金利上昇局面で軟調となりやすい高バリュエーション銘柄を中心に強い売り圧力に押された結果、1月下旬に26,000円近辺まで下落しました。その後、売られすぎの反動や、バリュエーション面での割安感の台頭、日米企業の良好な決算発表などを受けて戻りを試す展開となりましたが、ロシアによるウクライナ侵攻と、それを受けた各国の制裁発動への警戒感が高まると再び売りに押される展開となりました。また、原油をはじめとした資源価格の高騰を受け、物価上昇が各国の景気を冷やすとの懸念が高まったことも投資家心理を大幅に冷やす要因となりました。結果、当期末の日経平均は、25,700円台で取引を終えました。

○当ファンドのポートフォリオ

株価指数先物取引の売建玉の時価総額の合計額が、原則として、信託財産の純資産総額の3.8倍程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きのおおむね3.8倍程度逆となる投資成果をめざして運用を行いました。また、投資有価証券として当初は短期公社債を信託財産の総額の50%超組入れる方針でしたが、当期間については金利環境などを勘案し、金銭信託並びにコール・ローン中心の運用としました。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きのおおむね3.8倍程度逆となることをめざして運用を行うため、ベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

○分配金

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 2 期
	2021年3月17日～ 2022年3月16日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	19

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

引き続き、株価指数先物取引の売建玉の時価総額の合計額が、原則として、信託財産の純資産総額の3.8倍程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きのおおむね3.8倍程度逆となる投資成果をめざして運用を行ってまいります。

なお、投資有価証券として短期の国債を信託財産の50%以上組み入れる方針ですが、金利環境などを勘案しながら当面は金銭信託並びにコール・ローン中心の余裕資金運用とします。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年3月17日～2022年3月16日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	5 (3) (3) (0)	0.913 (0.462) (0.418) (0.033)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (先物・オプション)	1 (1)	0.120 (0.120)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権 口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支 払う手数料
(c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (印 刷)	0 (0) (0)	0.018 (0.006) (0.012)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 開示資料等の作成・印刷費用等
合 計	6	1.051	
期中の平均基準価額は、599円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

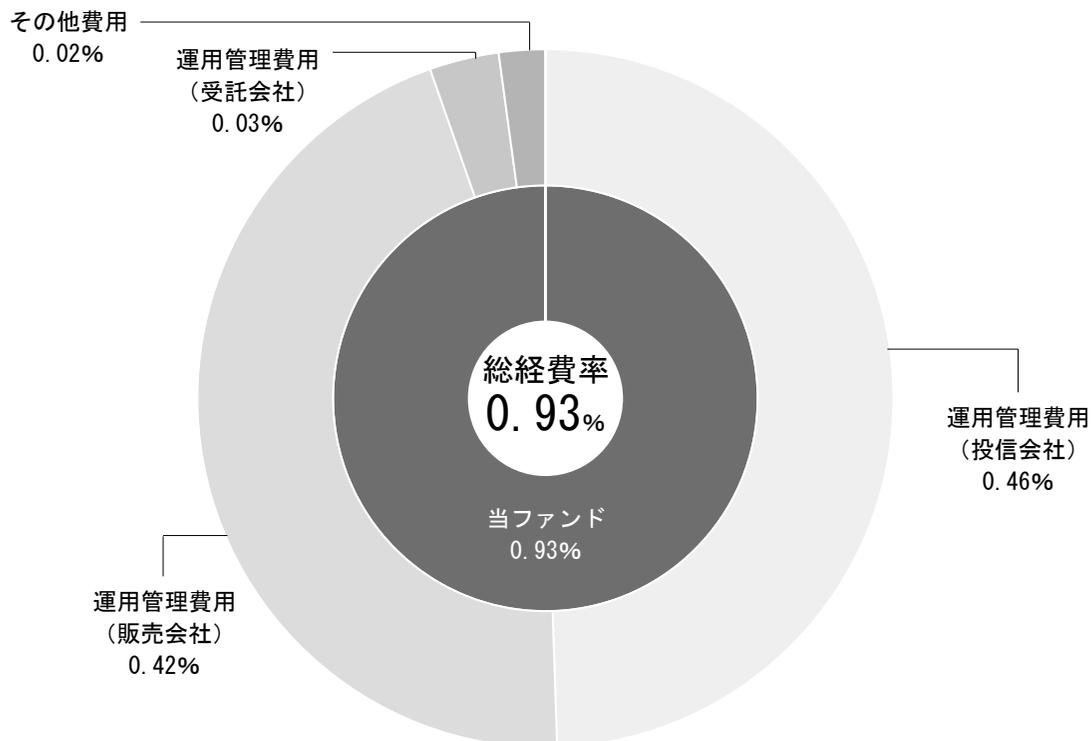
(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.93%**です。



(注1) 上記費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○派生商品の取引状況等

(2021年3月17日～2022年3月16日)

先物取引の銘柄別取引・残高状況

銘柄別			買 建		売 建		当 期 末 評 価 額		
			新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額	買 建 額	売 建 額	評 価 損 益
国内	株式先物取引	日経225	百万円 -	百万円 -	百万円 245,403	百万円 241,693	百万円 -	百万円 27,648	百万円 △837

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2021年3月17日～2022年3月16日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2022年3月16日現在)

先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別			当 期 末	
			買 建 額	売 建 額
国内	株式先物取引	日経225	百万円 -	百万円 27,648

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) -印は組み入れなし。

○投資信託財産の構成

(2022年3月16日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 8,290,754	% 100.0
投資信託財産総額	8,290,754	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨て。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年3月16日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	8,290,754,055円
コール・ローン等	6,285,650,055
差入委託証拠金	2,005,104,000
(B) 負 債	1,510,472,340
未 払 金	861,402,100
未 払 解 約 金	614,205,437
未 払 信 託 報 酬	34,230,593
未 払 利 息	17,220
そ の 他 未 払 費 用	616,990
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	6,780,281,715
元 本	102,516,483,407
次 期 繰 越 損 益 金	△ 95,736,201,692
(D) 受 益 権 総 口 数	102,516,483,407口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	661円

<注記事項（運用報告書作成時には監査未了）>
 （貸借対照表関係）

期首元本額 117,361,282,043円
 期中追加設定元本額 1,020,901,188,005円
 期中一部解約元本額 1,035,745,986,641円

（注）当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は95,736,201,692円です。

○損益の状況 (2021年3月17日～2022年3月16日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 494,067円
支 払 利 息	△ 494,067
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	36,936
売 買 益	△ 7,175,700
売 買 損	7,212,636
(C) 先 物 取 引 等 取 引 損 益	272,733,500
取 引 益	4,727,204,682
取 引 損	△ 4,454,471,182
(D) 信 託 報 酬 等	△ 71,850,209
(E) 当 期 損 益 金 (A + B + C + D)	200,426,160
(F) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 1,279,046
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 95,935,348,806
(配 当 等 相 当 額)	(△ 19,349,497)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 95,915,999,309)
(H) 計 (E + F + G)	△ 95,736,201,692
(I) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (H + I)	△ 95,736,201,692
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 95,935,348,806
(配 当 等 相 当 額)	(△ 19,349,497)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 95,915,999,309)
分 配 準 備 積 立 金	199,641,181
繰 越 損 益 金	△ 494,067

（注1）損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注2）損益の状況の中で(D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

（注3）損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注4）計算期間末における費用控除後の配当等収益（0円）、費用控除後の有価証券等損益額（199,641,181円）より分配対象収益は199,641,181円（10,000口当たり19円）ですが、当期に分配した金額はありません。

○お知らせ

該当事項はありません。